平成 26 年 5 月 24 日 発行 矢ヶ部 輝明

## ギターCD レター from yakateru(第5号)

最近、小さなサロン的な雰囲気で演奏する場が増えてきています。その一方で、自分の部屋で、ある程度完成した曲は、録音して残すという作業も進んでいます。演奏するということ、レコーディングするということ、この 2 つの活動を、再度考えていますが、。・・・・・

人前で弾くということの意味?価値?目的?はなにか…・・

## 音楽は、映画か演劇か?

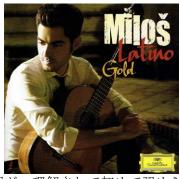
今回は、ギターに限らず音楽全 般の話をすることとなる。それは、 自分の中ではある程度決着をつけ たのだが、最近、人前で弾く機会 が増えることで再燃したテーマで ある。それは、音楽は、「映画的」 なのか、「演劇的」なのか。あるい は、音楽は、「絵画的」であっては いけないのか、という問題である。 「映画」と「絵画」の共通点は、 その作品の完成は不動のものとし た段階、つまり作り上げたものと して世に問うものであるが、一方 の「演劇的」というのは、演じて いる場で、リアルタイムで作り上 げていく過程を観客に見てもらう という意味である。「映画」では監 督が、「絵画」では作者が、納得い くまで、なんどもなんどもカット を取り直し、あるいは、上書き修 正しながら作り上げ、自分の手を 離れた完成品として人々の前に提 出する。対する「演劇」は、良い 劇を作り上げるという稽古はおこ なうが、その場その場の出来不出 来があるものを観客に提供する。

音楽は、聴衆の前で演奏するものであるという視点に立てば、当然、「演劇的」ではある。そのため、演奏の良い悪いは、その場の雰囲気次第のところがある。演奏会で、演奏が始まれば、途中でノリきない。と思ってもやり直しはでき受けることとなる。TAKE2が演奏会のように、プジャル加をするとに、デジャル加

工まで行い、演奏者とレコーディ ング技術者等が納得した状態で社 会に出す。このレコーディングと いう作業を通して CD を作り出す のは、「映画」作成と同様である。 ということは、演奏者は、「演劇的」 な演奏会という仕事と、「映画的」 なレコーディングという仕事の両 面を持っているということだ。か つての演奏家は、演奏会の奏者と しての仕事が基本で、その記録を 録音しそのままの音源をレコード なり CD なりに記録するというこ とだったろう。しかし、有名なピ アニストのグレン・グールドが、 途中からコンサート活動を中止し、 レコーディング活動のみを行なう ことで一大センセーションを引き 起こしたのは、この理由によるも のといわれる。グールドは、TAKE 2のない演奏会という場は、自分 の音楽活動とは違うと感じたから だとも読んだ。

演奏会の演奏時間という特定の 瞬間だけに演奏し、かつ、最高の 演奏を期待され続けるプロの演奏 家のストレスは相当のものだという。まあ、プロであるから、それ が仕事だと思っても、芸術家?と してのスタンスとは異なるだろう。 一方の素人ギタリストもは、人 前で弾くということで、評価さと ることで、自分を磨くということ

前で弾くということで、評価されることで、自分を磨くということもあるかも知れない。しかし、不思議なのは、画家は、素人もプロも、作品への世間的評価を気にしながら絵を書いているのではないし、その名声は、後から付いてくる場合が多い。その人の持つ価値



観が、理解されて初めて認められるという作者先行型である。一方で演奏するが、人前で演奏するが、表の都度、批判を浴りであるとでが、その都度、批判を沿ったで、基本の表とでは、本のでは、本のでは、本のでは、本のでは、本のでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのであり、まれている。とないであり、まれている。とないであり、まれている。とないであり、まれている。とないであり、まれているのだろう。グールドのような音楽家は、なぜ例外なのか。

技術の研鑽中で、講師や先輩諸 氏からの指導や仲間からの助言と いう意味での評価はあろう。その 場合でも、この演奏者の個性を伸 ばしていくという観点での指導・ 評価であり、評価した側の音楽性 を押し付けるものでない。

先日の関谷氏への私の評価も、 彼の音楽性が理解できなかった、 あるいは別次元の音楽であったか らかもしれない。自己陶酔の仕方 が違うのかもしれない。演奏家は、 自分の弾きたいように弾けばいい し、それを聴く方も、それを覚悟 の上で聴くべきだし、理解するよ うに務める義務があるのだ。

さて、今日、紹介する CD は、前回ちらっと紹介したミロシュの演奏である。このカッコよさは、CDで聴くだけでなく、見なければわからないのだろうと思う(だから DVD 付き)。演奏に演劇的要素が欠かせない人だ。(続く)

1

